

「カプラ」で遊ぼう！

名和さくらの丘保育園

本園では、「カプラ」という細長く薄い板でできた積木で日常的に遊んでいます。さらに遊びを広げるため、このたび年長児が、鳥取県立生涯学習センター主催の出前講座『魔法の板「カプラ」で遊ぼう』に参加しました。

当日は、6000個ものカプラでダイナミックに楽しみました。積み



▲カプラを集めて大きな壁を製作中

方を工夫しながら崩れて何度も作り直すうちに、自分のイメージに近づけたり、積み上げて沸きあがる新たなイメージを感じ、じつくりと作っていく姿が見られました。

最後に大きな壁を作り、端から崩すと滝のように崩れていく様子に、子どもたちは目を丸くしていました。夢中で遊んだものを崩すことも次第に快感になり、簡単に壊れることも楽しいと感じられることがカプラの魅力です。「小さい子にも見せてあげたい」「カプラをつなげて街を作って楽しかった」「壁がパラパラ順番に崩れていくのが面白かった」などと感想を伝えていました。

小さな板から大きなものが作れる楽しさ、崩れてもまた作り直しながら友だちとイメージを共有し、協力してひとつのものを作り上げていく楽しさを味わうことができました。これからも、個の遊びだけでなく、園だからこそ経験できる共同での遊びを提供し、子どもの感性を刺激し遊びを広げ、また、深めていくような体験を増やしていきます。

大山町まるごと講座（名和公民館）

『山陰鉄道物語〜軌跡とこれから〜』

11月1日、大山町まるごと講座で『山陰鉄道物語〜軌跡とこれから〜』をテーマに、山陰の発展をけん引した鉄道の軌跡を辿りながら、山陰鉄道の変遷に触れるフィールドワークをしました。

今から118年前の明治35年11月1日、山陰で初めて境（現境港）〜御来屋間に鉄道が開通しました。

「わが町に汽車が走る！」当時の人々は戸惑いと希望が交差する中、近代化の象徴でもある汽車の開通を迎えました。その後、日本列島に鉄道網が敷設され、各駅を起点に町は整備が進み発展をしますが、国鉄民営化後、徐々に縮小していきます。日頃意識することがなかった日本の鉄道の歴史を垣間見て、大きな変動の100年であったことを学び、とても感慨深いものがありました。

また、新米子駅の開発に関するお話、新設大山口駅の見学、下市駅にオープンした地域のやすらぎの場を目指す「喫茶ニコ」でのティータイムなど、これからの新たな始まりにも触れ、最後に中山口駅舎での開放

感あふれるミニライブで締めくくりました。

今回の丸一日鉄道に触れる講座を終えて、私たちにとつての鉄道への関わり方や活用について、考え直すきっかけとなり、充実した講座となりました。



▲近代化遺産の名和川鉄橋での解説



▲DAISENスズメーズによるオカリナの優しい音色に包まれたひととき